

実践報告

札幌市立山鼻小学校

継続研究 4 年目

(1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究

サッポロピリカコタンの施設見学と同施設の体験プログラムを活用し、アイヌ民族の歴史や文化などについて直接学ぶ体験学習

- 北海道の先住民族であるアイヌ民族の歴史や文化、思想について体験を通して学習することで、アイヌ民族の生き方について理解を深める。
- アイヌ民族の生き方から、人・もの・自然、あらゆるものに対する畏敬・感謝の気持ちを学び、お互いの「生命」を尊重し合うような態度を育てる。

(2) 実践の内容

【実践】「札幌市アイヌ文化交流センター『サッポロピリカコタン』における体験学習」
○ねらい

- ・ 見学や体験的な活動を通して、アイヌ民族の歴史や文化についての理解を深め、尊重する態度を養う。

○学習内容

◎社会科「昔から今へと続くまちづくり」を通して

- ・ アイヌ民族の暮らしぶりを調べる中で、衣食住だけでなく、生活に使用する道具の中にある「神」の存在や自然への畏敬・感謝の気持ちなど、自然とともに生きる考え方について学ぶことができた。

◎「サッポロピリカコタン」での体験学習

- ・ アイヌ文化交流センターの方々からお話を聞いたり、一緒に体験的な活動を行ったりすることで、実感を伴ってアイヌ文化に触れることができた。

《活動内容》

1) アイヌ文化についての講話とアイヌの楽器・踊り

挨拶や身近なものを表すアイヌ語を教えもらうことから学習がスタートした。次にアイヌ民族の自然に対する考え方や、その考え方がよく表れている踊りを教えてもらった。一緒に踊って体を動かしながら学習することができ、アイヌ民族の考え方を理解することができた。子どもたちも、とても興味をもって参加していた。



2) 館内・館外施設見学

館内にある展示室を見学した。「触れる展示室」ということで、たくさんの道具や衣

服を、重さや質感などを確かめながら見学することができた。その後、館の外にある「歴史の森」を見学した。チセの見学では、中に入って詳しく見る事ができた。実際中に入って、体験することで、アイヌ民族の生活にさらに興味をもった児童が多くいた。チセの中では、館の方の解説を聞いた。「神が通る窓」という話を聞き、あらゆるところに畏敬・感謝の念をもつという文化に対し、改めて深く感心していた。

3) アイヌの昔遊び体験

狩りを模倣した遊びや長なわ跳びを体験した。投げ突き輪遊びでは、2人1組になって、一人が輪を投げて、もう一人が木の枝を使って、輪に通す活動を行った。長なわ跳びでは、周りにある自然のものを使って遊ぶ工夫を学んだ。自然と触れ合いながら暮らしていたアイヌ民族の生活を、遊びの中からも感じ取っていた。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 楽器の演奏を聴いたり、遊びを通して文化を学んだりする活動によって、アイヌ民族の存在をさらに身近に感じていた。アイヌ文化交流センターの方々の御指導・御協力で、たくさんの体験ができた。特に、館内・館外見学の時に解説を加えながら案内してくださる方がいたことで、展示品のもつ意味も学習できたことがとてもよかった。児童は教室で行った事前の学習を基に、理解をさらに深めていた。

② 課題

- 音楽、踊り体験や遊び体験など、児童が興味をもって学べる内容がたくさんある。アイヌ紋様の切り絵体験や施設の見学などもあるので、一度の訪問だけで体験しきれないと感じる。4年生の学習内容に合わせて現地学習を計画したが、「人権教育」という側面から見ても、他学年でも訪問し、学ぶ機会を増やしていてもよいのではないかと考える。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- サッポロピリカコタンでの学習によって、アイヌ民族の方々が大切にしてきた歴史や文化などについて、実感を伴って理解することができた。これをさらに発展させ、人権教育として「互いを尊重し合うような態度」を育てていくとなると、社会科にとどまらず、他教科・多場面へ広げていく必要がある。道徳の時間や総合的な学習の時間などで関連した内容を扱うなど、教育課程の編成を工夫していきたい。